

年頭のご挨拶



日本アイ・ビー・エム健康保険組合
理事長 山口 俊一

被保険者ならびにご家族のみなさまにおかれましては、清々しい新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。また、日頃より当健康保険組合の事業運営につきまして多大なご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

国内外で感染が拡大している新型コロナウイルスによって、2020年は生活環境の変化を求められる一年となりました。日常生活に新しい生活様式を取り入れるなどの社会変化に合わせ、政府の「骨太方針2020」においては医療・介護分野でのオンライン化の推進や、データヘルス計画と重症化予防の推進を行う方針が示されました。日々変わる情勢に、「健康に生活する」ことの大切さを実感されている方は多いかと存じます。

健康で安心できる暮らしを保障する国民皆保険制度は、わずかな負担で必要な医療が受けられる重要な制度です。しかし、この制度の支え手の中核を担う健保組合の財政状況は、加速する高齢化に伴う医療費の増加によって切迫しており、制度そのものの継続が危ぶまれています。

加えて2021年は、新型コロナウイルス感染拡大による経済の混乱から、多くの健康保険組合で保険料の減収が避けられない状況になると報じられております。このような状況から健康保険組合の全国的な連合組織である健康保険組合連合会では、真に現役世代の負担軽減につながる制度設計と、財政が逼迫した健康保険組合に対する財政支援を政府に対して求めるなど、国民皆保険の存続に危機感を持った対応がなされています。

当健康保険組合では社会の変化に対応しつつ、コラボヘルスの推進と重症化予防のための保健事業を継続してまいります。みなさまにおかれましては、引き続き体調に十分ご留意され、健康の維持・増進に努めていただくとともに、ジェネリック医薬品のご利用をはじめとするより適切な医療費の実現へのご協力をお願いいたします。

最後になりますが、本年がみなさまにとって実り多き一年となりますことをご祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。